

近年は頸髄損傷の徴候や症状が認められなくても、その可能性が完全に排除できない場合は「損傷がある」と仮定し、また頸部付近の痛みを訴えている場合には頸椎骨折の疑いも考えられるため、用手的に頭頸部の保持をして脊椎運動制限（Spinal Movement Restriction, SMR）を行うことが求められている。

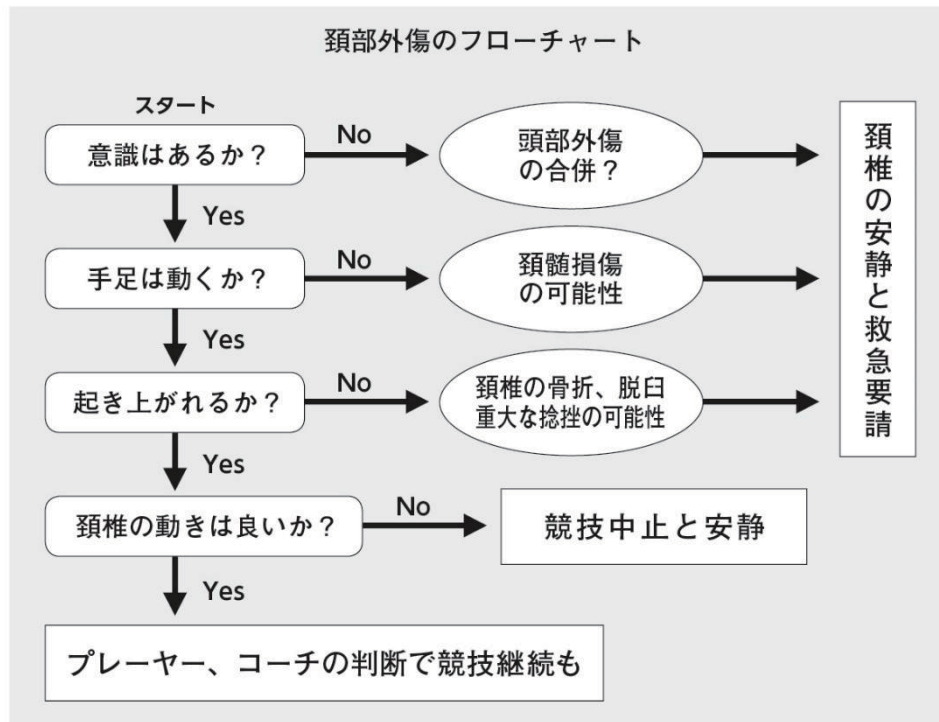


図 3-5 頸部外傷発生時のフローチャート

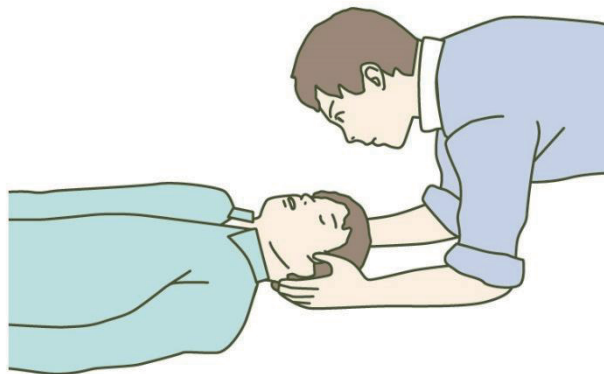


図 3-6 頭頸部の安定の保持方法